

I 徳島東部地方拠点都市地域の整備の基本理念

現在進行している東京並びにその周辺都市への人口及び諸機能の一極集中を抑制し、大都市機能の地方分散を図ることが、地方の活性化及び国土の均衡ある発展のために重要であるとの認識が高まっている。

一方で、地方都市圏は今や人々の生活を支えるサービスの生産・供給の拠点として、また情報化、国際化、ソフト化・サービス化等の進むわが国の経済社会を主導する活動拠点として、さらには、全国的な少子化の影響による若年層を中心とした人口の減少を背景に、活力が低下しつつある地域の牽引力として、その重要性は極めて高くなっている。

徳島県にあっては、四国横断自動車道、四国縦貫自動車道等の四国内の広域高速交通体系の整備が進められていく中で、平成6年9月の関西国際空港開港や平成10年4月に明石海峡大橋が開通し、本四連絡道路神戸・鳴門ルートが完成するなど、四国地域全体の玄関口として重要な位置を占めるとともに、近畿圏の機能を分担していくという役割が期待されている。反面、人口の減少傾向が見られ、若年層を中心とした人口定住を促進し、地域全体の活力の向上を図ることが大きな課題となっている。

こうした状況を背景に、本計画は、都市機能や業務機能が一定の集積をし、かつ社会生活圏域として非常に結びつきの強い、徳島市と周辺の市町村を含めた「徳島東部地方拠点都市地域（4市6町1村）」において、地域の伝統・文化、産業を最大限に活用し、都市機能の増進及び居住環境の向上を推進することにより、若者が希望と魅力を持つ「職、住、遊、学」の備わった生活空間を創造することを目的として策定するものである。

そして、当地域の将来方向を「水と緑が映える四国の玄関都市地域」とする。

その推進に当たっては、環境の保全、地域の雇用促進、農山漁村の整備の促進等への配慮を行うとともに、豊かな自然と共生する居住環境や交流拠点の整備を図ることとする。

II 地方拠点都市地域の整備の方針に関する事項

1 地方拠点都市地域の概要

(1) 地方拠点都市地域の名称

徳島東部地方拠点都市地域

(2) 中心都市名

徳島市

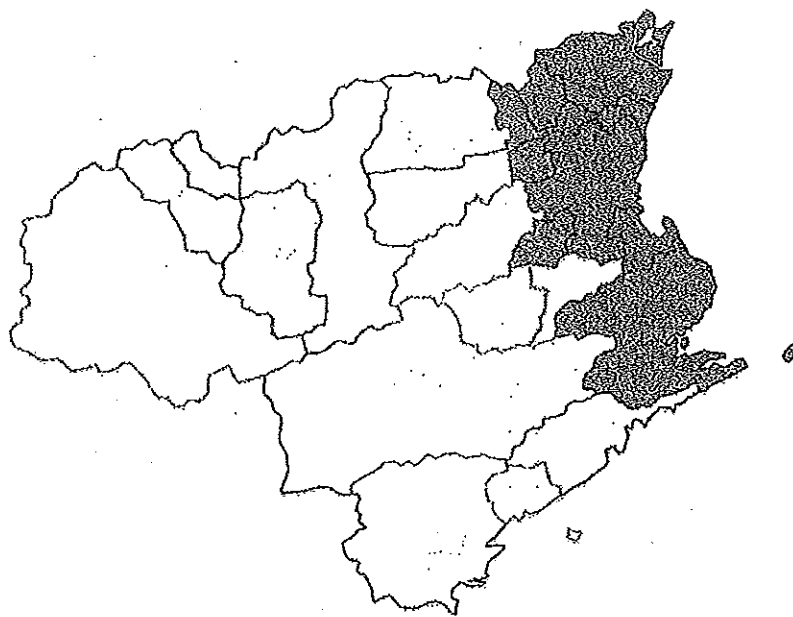
(3) 地方拠点都市地域の構成

当地域は、徳島市、鳴門市、小松島市、阿南市、佐那河内村、石井町、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町の4市6町1村で構成する。

市町村名	人口(人) (平成12年)	人口増減率(%) (平成7年～12年)	面積(k㎡) (平成12年)
徳島市	268,218	△ 0.2	191.23
鳴門市	64,620	△ 0.5	135.45
小松島市	43,078	△ 0.6	44.89
阿南市	78,971	△ 0.6	279.39
佐那河内村	3,016	△ 7.1	42.30
石井町	26,023	2.3	28.83
松茂町	14,267	5.2	13.10
北島町	19,823	1.6	8.77
藍住町	30,368	6.9	16.27
板野町	14,637	4.6	36.18
上板町	12,952	1.8	34.51
地域合計	575,973	0.5	830.92
徳島県比(%)	69.9%	—	20.0%
徳島県	824,108	△ 1.0	4,145.10

資料：平成12年(2000年)国勢調査報告

(4) 位置図



(5) 圏域図

